

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和4年6月16日 ～ 令和5年3月15日
調査研究事項	<p>≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫</p> <p>I 教育課程に関すること</p> <p>II 広報・相談体制の充実にに関すること</p> <p>VI その他夜間中学における教育活動充実にに関すること</p>
調査研究のねらい	<p>○ 本市夜間学級に在籍する生徒の約9割は外国籍であり、残り1割程度が学齢期に登校することができず、義務教育内容の習得が不十分なために学び直しを希望する日本人である。外国籍生徒のほとんどが日本語を基礎から学ぶ必要があり、国籍・母語も多様で、年齢層も幅広く、個々の学習歴や文化的背景及び就労状況も様々である。こうした人たちにとって最適な学びを保障する指導法について研究する。</p> <p>○ 様々な事情で十分な義務教育を受けられなかった人に学ぶ機会を保証するため、夜間学級について広く周知を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語習熟度が低い生徒に対する日本語指導及び、義務教育内容の習得が不十分な生徒に対する教科指導の在り方について研究する。 ・ 生徒が日本社会に適応し、自立した社会生活を営むために必要な力を身に付けられるよう、個々の生徒の学習状況及び学習目的に応じた指導内容、指導方法等について研究する。 ・ 入学希望者の中には、不登校を経験した人や、成育環境・生活状況に様々な事情を抱えている人もいることから、生徒一人一人の状況把握に努めながら、それぞれの生徒に合った学習を尊重できるように受入体制や指導方法等について研究する。 ・ より多くの人に夜間学級のことを知ってもらうために、ホームページ等の活用方法やオープンスクールの取組について研究する。 ・ 経済的負担を考慮した効果的な校外学習等の在り方について研究する。
調査研究の成果	<p>【広島市立二葉中学校】</p> <p>【広島市立観音中学校】</p> <p>別紙のとおり</p>

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和4年6月16日 ～ 令和5年3月15日
調査研究事項	<p>委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究 ≪広島市立二葉中学校≫</p> <p>I 教育課程に関すること II 広報・相談体制の充実にに関すること VI その他夜間中学における教育活動充実にに関すること</p>
調査研究のねらい	<p>○ 本市夜間学級に在籍する生徒の約9割は外国籍であり、残り1割程度が学齢期に登校することができず、義務教育内容の習得が不十分なために学び直しを希望する日本人である。外国籍生徒のほとんどが日本語を基礎から学ぶ必要があり、国籍・母語も多様で、年齢層も幅広く、個々の学習歴や文化的背景及び就労状況も様々である。こうした人たちにとって最適な学びを保障する指導法について研究する。</p> <p>○ 様々な事情で十分な教育を受けられなかった人に学ぶ機会を保障するため、夜間学級について広く周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語習熟度が低い生徒に対する日本語指導及び義務教育内容の習得が不十分な生徒に対する教科指導の在り方について研究する。 ・ 生徒が日本社会に適応し、自立した社会生活を営むために必要な力を身に付けられるよう、個々の生徒の学習状況及び学習目的に応じた指導内容、指導方法等について研究する。 ・ 入学希望者の中には、不登校を経験した人や成育環境・生活状況に様々な事情を抱えている人もいることから、生徒一人一人の状況把握に努めながら、それぞれの生徒に合った学習を尊重できるように受入体制や指導方法等について研究する。 ・ より多くの人に夜間学級のことを知ってもらうために、ホームページ等の活用方法やオープンスクールの取組について研究する。 ・ 経済的負担を考慮した効果的な校外学習等の在り方について

	て研究する。
調査研究の成果	<p>《広島市立二葉中学校》</p> <p>1 調査研究の実施内容</p> <p>【6月】・第2回検討会議</p> <p>夜間学級の情報を発信する方法について検討した。今年度も授業や行事、学校生活の様子を意識的に学校のホームページに掲載し、夜間学級について周知を図ることにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習 <p>コロナ禍で体験学習も野外活動も中止となった今年度、唯一取り組めた校外での学習となり、多くの生徒が参加した。JRを利用して実施し、参加生徒のほとんどが宮島棧橋前に予定通り集合できた。天候には恵まれなかったものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大対策に努めながら、楽しく厳島神社と宮島水族館を見学した。日本の文化や自然に触れ、交流会で仲間との親睦を深めることができ、非常に有意義な校外学習となった。</p> <p>【7月】・第2回研修会</p> <p>個々の生徒の学習状況や習熟度等について情報交換を行い、現状の把握に努めるとともに、各教科の指導方法や教材について交流した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に適した学習指導方法等についての研修 <p>講師を招聘し、「生徒の多様な実態を踏まえた効果的な学習指導方法について」の研修を行った。日本語の生活言語能力と学習言語能力の違いや文化間移動をする生徒が抱える課題等について研修し、また、個別の指導計画や実際の授業の様子について講師の方から助言をいただき、生徒のための具体的な取組を学ぶことができた。</p> <p>【8月】・教材の作成</p> <p>ペアでのQAやインタビューなど会話練習教材や非漢字圏出身生徒も段階的に学習できる漢字教材などの作成に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間学級に関する情報についての広報 <p>学校のホームページで夜間学級の授業や行事の様子を紹介し、これによりオープンスクールの見学につ</p>

ながった例もあった。

【9月】・夜間学級連絡会①

実施されなかった。

・作成した教材を用いた授業研究

日本語授業の中で学習内容に応じたペア練習やロールプレイ、インタビューなど「話す」「聞く」活動を増やすよう取り組んだ。また日記や漢字などを「書く」活動を授業に取り入れる場面を増やすよう工夫した。継続的に取り組むことで、生徒自身も自分たちの学力の向上に気づき、学習意欲の向上につながり始めた。

・オープンスクール①

校長会、学校のホームページで案内し、入級希望者と日本語指導に興味のある方の2組が参加され、生徒とも交流でき、夜間学級を知っていただくよい機会となった。

・日本的な大掃除の体験学習

箒や雑巾に加えて、モップや掃除機も使った日本の掃除を説明し、自分たちの教室で体験した。汚れを残さないための手順や掃除機の各種ノズルを用途に応じて使い分けることや最後に掃除用具をきれいにすることで終わることまでが掃除だと考える文化を学ぶことができた。

・異文化交流体験学習

講師の都合により、12月に延期して実施した。

【10月】・第3回研修会

各生徒の前期の学習状況を確認し、後期の指導内容について検討した。また、新入試制度や高校受験希望生徒に対する取組についても確認した。

【11月】・オープンスクール②

日本語指導を学んでいる学生がグループで参加され、夜間学級での学びを知っていただくよい機会となった。今後も地道に取り組んでいきたい。

・先進校視察

(1) 外国籍の生徒への学習指導について

(2) 入学希望者の受入体制や指導方法等について

埼玉県川口市立芝西中学校陽春分校（平成31年

4月開校)を視察した。現在の教育状況に合った教育課程を編成し、学ぶ意欲に応える夜間中学として取り組まれている。日本語指導については、授業時間で日本語を教えるのは1年生のみで、2・3年生は必要な生徒に授業前の補習で対応されている。日本語理解が難しい生徒に十分配慮した形で授業を行ったり、必要に応じて各教科で小学校段階の内容を取り扱い基礎学力の向上を図ったりしていることは本校とよく似た状況である。今後の参考にしていきたい。

【12月】・異文化交流体験学習

日本の伝統文化である長唄三味線について学ぶことを通して異文化理解を深めるよい機会となった。また、生徒も手話をしながらの歌唱やギター伴奏などで参加し、日頃の音楽の学習成果を発揮できた。

【2月】・第4回研修会

年間指導計画や評価方法、学習指導、生徒指導等について、今年度の成果や課題を検討した。

【3月】・第3回検討会議

来年度の学習グループの編制や年間指導計画等について検討した。

・第5回研修会

今年度の成果と課題をまとめ、来年度へ向けての準備を確認した。

・夜間学級連絡会②

夜間学級の状況や入級希望者に関する情報交換を行った。

2 調査研究の成果

○ 今年度は、日本・中国・ネパール・フィリピン・ブラジル・インドの生徒に加えて、ペルーの生徒も入級した。生徒の日本語力や各教科の学習状況、卒業後の進路希望等により、日本語1・日本語2・教科基礎・教科発展の4グループに編制した。毎週各グループの学習状況と生徒の状況を交流し、学習の内容・進度・指導方法について協議し、全員が意識統一しながら学習指導に取り組むことができた。

○ 登校して学習を継続することで、程度の差はあるものの

	<p>学力をつけることができ、学習意欲の向上にもつながっている。また、何か1つでも自信を持てれば、好きなことが増えたり他にも良い影響が出たりするため、学習内容や教材等の工夫に取り組んでいく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 今年度はタブレット端末の導入・活用に取り組み、シャドーイングの学習でも利用している。生徒は操作にもすぐ慣れ、自分のペースで繰り返し学習することで、日本語を聞く力も伸び、長文の物語もシャドーイングできるようになった。○ 進路保障に向けて、今年度は高校で学ぶ先輩の話を聞く会を開催した。実体験に基づく話は生徒にとって印象深く、自分の進路を考えるよい刺激になった。一方で、今年度も進路保障に向けて昼の補習を計画したが、仕事優先であまり出席できない生徒の指導に苦慮した。高校進学を希望して入学する若い生徒が多くなったが、家族の支援を受けながらバランスよく仕事と学習を両立させて進路への意識を保ち続けることはどの生徒にとっても課題である。○ 学校のホームページに授業や行事の様子を随時載せて、夜間学級の周知を図ることができた。
--	---

1 調査研究のねらい

【広島市立観音中学校】（学習指導に関すること）

本校には日本人、ネパール人、フィリピン人、中国人が在籍し、年齢層は10代から60代と幅広く、学習歴も様々である。義務教育内容習得が不十分な既卒者も入級している。そのため、日本語の習熟度が低い生徒に対する日本語指導及び、義務教育内容の習得が不十分な生徒に対する教科指導が課題であるため、各国籍の生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導や教材のあり方について研究する。

（課題）

- ・ 日本語の習熟度が低く、また学習速度も遅い生徒に対する効果的な学習指導
- ・ 継続的な登校が困難なため日本語の定着度が低く、初級後半レベルの日本語学習が難しい生徒に適した学習指導
- ・ 日本語学習を主とした学習段階から、教科学習を主とした学習段階へ移行した生徒に対する教科指導
- ・ 義務教育内容の習得が不十分な、学び直しの日本人生徒に対する教科指導
- ・ 高校進学希望者の学力保障

（その課題を持つこととなった背景等）

- ・ 国籍・年齢も母国での学習歴も来日後の生活環境等も出席状況までも異なるさまざまな生徒が、少人数グループであるとはいえ、一斉授業で日本語初級から学習するため、生徒間の日本語の学習速度や習熟・定着度には大きな差がある。
- ・ 数年前から、出席状況や生徒の年齢等により、日本語初級の前半終了時点で既に学習内容の定着に差が生じる状況が見られ、既習事項の定着を前提として展開される教科学習の教材の学習内容を理解するのが困難な生徒が多い。
- ・ 日本語教材だけで行う日本語学習では、日本語力はある程度までで進歩が滞ってしまいがちである。日本の文化・社会・歴史・生活習慣等を幅広く学ぶことによって全体的な日本語力の向上も図れるが、生徒の多くはその認識（幅広く学ぶことによって日本語力も向上させることができるという考え方）までには達していない。また、日本語能力は初級レベルであり、日本語能力と中学校教科書で必要とされる日本語力にはかなりの開きがあるため、日本語による教科学習はまだ早いと考える生徒も多い。

- ・ 本校は従来から日本人生徒を多く受け入れており、義務教育未修了者への教科指導にはそれなりの実績がある。しかし、令和に入り既卒者（日本人の学び直しの生徒）・義務教育内容の習得が不十分な生徒を迎え、さらに「工夫された授業」によって効率よく学習指導し、短期間で成果を上げる方法について調査・研究する必要性が生じてきている。

以上のような状況の中で、より効果的で生徒の学習意欲を高める取組を行う必要があり、日本語指導チーフ・教科指導チーフを中心に効果的な日本語学習自主制作教材の作成及び「行事を通した日本語指導」について調査研究する。また、オープンスクール開催へ向けての調査研究・情報収集も行う。

2 調査研究の成果

【広島市立観音中学校】

(1) 本年度の取組について

上記のねらいの達成を目指して、本年度は次の取組を行い、実践に結びつけ成果をあげた。

① 教員研修

年5回程度、校内で担当教員による本年度の授業に関する研修会を開催し、生徒個々の学習状況を把握するとともに、本年度の学習グループ編制や年間カリキュラム・使用教材・指導方針・方法について意見交換を行い、学習指導に対する意識統一を図る場とした。また、夜間学級を広く知ってもらうための方法やオープンスクールの開催について討議を重ねた。さらに「自主制作教材」の交流・研究・討議を継続的に行った。

② 情報収集・・・川口市立芝西中学校陽春分校

芝西中学校では昼間の中学校に近い教育課程を実施している（学齢経過者向けの教育課程特例を導入しているものの、授業時数が他の夜間中学と比べて多い）。そのため、9教科の授業はもちろん、道徳、学活、総合などの教科も実施されている。実際に道徳の授業では生徒が多国籍なことを生かし、活発な意見交換が行われていた。少人数なことと、TTで授業が行われていたため、生徒がわからない点をすぐに質問しながら授業を行っていたことが、活発な意見交換につながっていたように思う。一方

で、自我が確立した成人に対し、道徳を説くことの難しさも見受けられた。

本校でも昼間の中学生と同様の授業を実践している。少人数、チームティーチング制を導入し、きめ細やかな指導が行われていた芝西中学校を参考に、実践に取り組んでいきたい。

③ 授業実践

地域交流や文化体験を通して日本語に触れさせ、日本人と直接話すことで自身の日本語力を確認させる機会を持つことができた。また教科指導グループにおいて、研修や各自収集した情報を活用し、生徒実態に応じた学習教材を準備し、分かりやすい授業づくりに努めた。また今年度は特にICT等の活用を通して、シャドーイング・インタビュー・作文発表会など、コミュニケーション活動を積極的に取り入れ、主体的な学びにつなげることができた。

<行事を通した日本語指導>

- ・ 6月 校外学習 ～岩国の歴史をたどる～
- ・ 7月 国際理解講座 ～茶道体験を通して～
- ・ 10月 校内秋祭り ～日本の伝統文化にふれる～
- ・ 1月 音楽会 ～演奏会での交流を通して～

④ オープンスクール

11月に2日間実施

「夜間学級で学んでみませんか?」・「オープンスクール～夜間学級見学会～お知らせ」の2種類の啓発資料を日本語・英語・中国語の3か国版を作成し、校内へ掲示し呼びかけを行うとともに、学校ホームページにも掲載した。

(2) 取組の成果・課題について

① コミュニケーション活動について

- ・ ICT等の活用を通して、シャドーイング・インタビュー・作文発表会など、コミュニケーション活動を積極的に取り入れ、主体的な学びにつなげていくことができた。欠席しないで授業を受け、学習が継続できた生徒は確実に学力と会話力が上がり、学習意欲の向上につながっている。さらに、生徒に一つでも自信を持たせることができれば、他のことにも良い影響を及ぼすので、休みがちな生徒への根気強い声かけと、学校へ行って勉強しなければ損をすると思える魅力的な

授業、教材作りを工夫していく必要がある。

② 行事を通じた日本語指導

- ・ コロナウイルス感染拡大予防や生徒の健康状態の把握と一人ひとりが安心・安全に学校生活を送るために、今年度も養護教諭を中心にコロナ感染症対策を徹底した保健指導では、その取組を通じて感染拡大防止はもとより、日本語指導の側面でも大きな成果があった。さらに今年度は感染症対策で重要な手洗いが正しく行われるようにと学校薬剤師会の指導を受け、生徒の意識に大きな変化が見られた。
- ・ 国際理解講座として、今年度は茶道を体験した。日本文化に触れ、茶道の所作や礼法を通して相手を敬う心やおもてなしの精神を学ぶことを目的に、上田宗箇流の講師を招いた。日本語による作法の説明を熱心に聞き入る生徒の姿が印象的であり、茶道独特の空気感にも馴染んでいる生徒が多かった。説明も分かりやすい日本語でされたので、生徒は強い関心を持っていた。昼間部の茶道部の生徒との交流も計画すればよかった。
- ・ 岩国の史跡を見学し、日本のアーチ橋や山城の造形美を堪能するとともに、岩国の歴史理解を深めることができた。事前学習ではクイズを取り入れて学習したので、楽しみながら理解することができた。貸し切りバスでの移動だったので、バス内での日本語を使っただけの交流は意義深いものとなった。一日を通して、学習班・学年・国籍に関係なく生徒間の絆が深まったと思う。
- ・ 音楽会「音楽の夕べ」においては、今年度は、講師を呼んで、日本の童謡を聴き、日本の音楽に親しむとともに、日本語の言葉の使い方や様々な表現方法を学んだ。また、生徒が音楽の時間に取り組んできた合唱を発表した。